

「自分の意思で投票を」

杜陵高で明るい選挙啓発運動 有権者の気持ちに



模擬選挙では、候補者役となった先生たちの訴えを聞いた

杜陵高（三田正己校長、生徒99人）は22日、3年生の総合的な探究の時間で、主権者教育「明るい選挙啓発運動」を行った。3年生21人が受講。選挙の意義や投票方法を学んだ後、模擬選挙にトライし、有権者の気持ちに触れた。

まず、盛岡市選管事務局長の木村大地主任が「授業を通じ、政治や選挙に興味を持つてほしい。投票権がある人には投票に行ってもらいたい」と呼び掛け、「日本は民主主義の国だから、皆のことは皆で話し合って決める。（国や地方自治体は人口が多くなるので、皆に選ばれた代表が話し合



投票箱に投票用紙を入れる生徒

て決める。皆の代表を選ぶのが選挙。誰を選ぶかによって、皆の暮らしが変わる」と選挙の必要性を説いた。また、投票する人を決める上で大切なことは「自分の意思で決めること」と強調した。続いて、「このよう市長模擬選挙を実施。同校の先生3人が候補者役になり、「自然災害対策を強化する。ドローンやかまどベンチ、備蓄の充実を図る」「ペット同伴者が安心して避難できる環境を整える」「一家に一つ耐震室をつくるため、補助金を出す」などと訴えた。

して、投票用紙に当選してほしい候補者の名前を書き、実際の選挙で使っている投票箱に投票用紙を投函した。

授業後、及川あけりさん（17）は「自分の意思で投票することは大事だなと思った。18歳になったら、投票に感想を話した。」

※ 盛岡タイムス 2023年6月24日付 この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。

